

## デジタルコンテンツを活用した授業を実施するための事例集の開発

宮崎市教育委員会 教育情報研修センター 指導主事 児玉 晴男

[h-kodama@mnet.ne.jp](mailto:h-kodama@mnet.ne.jp)

<http://www.mcnet.ed.jp/mcnet/>

概要 「わかる授業」構築のため、デジタルコンテンツを活用した授業を実施した事例集の開発について論じる。デジタルコンテンツを利用した授業事例を集め、公開することで実践を共有することができる。多くの授業事例を登録するシステム、事例を公開するシステム、それらをトータルコーディネートすることについて、今後現実的な実践を進めていく。

キーワード：デジタルコンテンツ，授業活用，教師教育，事例集，コーディネート

### 1. はじめに

#### (1) コンピュータ授業活用の推進の背景

ミレニアムプロジェクトにおいて「2005年度を目標に、全ての小中高等学校等からインターネットにアクセスでき、全ての学級のあらゆる授業において教員及び生徒がコンピュータを活用できる環境を整備する。」(1999)が発表され、その推進は国家プロジェクトとして認知されている。

#### (2) デジタルコンテンツの現状

現在デジタルコンテンツは、教育情報ナショナルセンター(NICER)や財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)のサイトを見てもわかるように、膨大な数のものが用意されてきている。

#### (3) 宮崎市の状況

宮崎市は、「e-Japan 重点計画 2002」より3年早く、全学級にインターネットに接続したコンピュータを2001年度に配備し終えた。

しかし、実際の授業の中で利用は少ない。教師は、デジタルコンテンツを使った実践経験が少ない。デジタルコンテンツは、料理にたとえるならば、調理前の素材と似ており、ほとんどが生でそれを調理する教師側の力量も必要である。したがって、実践事例を数多く手に取れるようになることが必要である。

さらに、これからコンピュータ機器等の整備を行う自治体でも同じ現象は起こりうる。費用対効果の行政評価に耐えられるコンピュータ機器等の活用も厳しく問われるなかで、わかる授業への還元は急務となる。本研究において、活用事例収集について研究することは、効果的なコンピュータ活用することにつながるものと考えられる。

### 2. 宮崎市デジタルコンテンツ活用授業モデル収集プロジェクトの設計

宮崎市は、会計検査院の平成12年度決算検査報告「公立小・中学校におけるコンピュータ教室等の効果的な活用について改善の意見を表示したもの」(2001)や、宮崎市で行われた宮崎市情報教育研究大会の講演(2002)により、わかる授業にするためのコンピュータ活用の重要性を深く認知するにいたった。

そこで、図1に示すように、わかる授業のためのコンピュータ活用を促進する目的で、組織作りをし、年間250事例を目標に収集し、すぐに実践できるよう教科・単元などで検索できるようにした。また、全校が参加する事例開発のプロセスが教員研修になり、市内教員の力量向上を図ることになると考えられる。

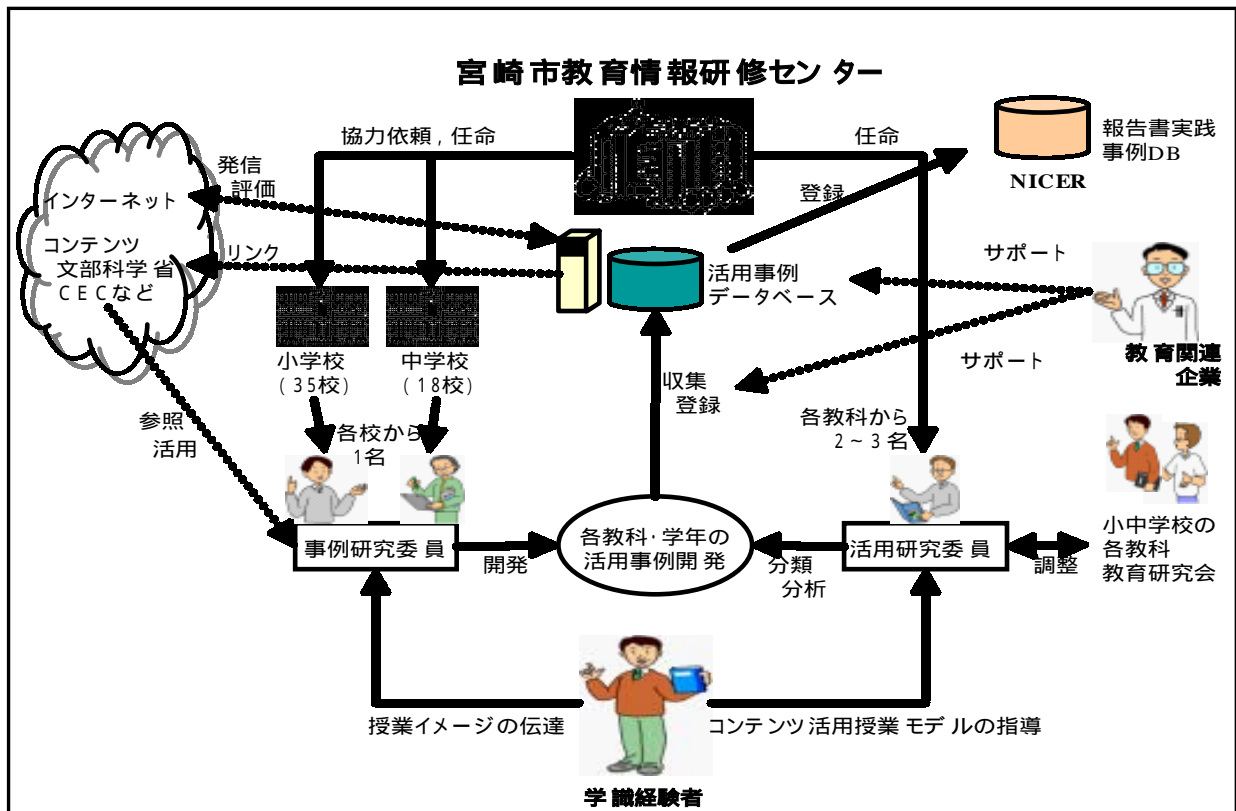
#### (1) 事例研究委員(各校1名の情報教育担当者)

1999年から宮崎市は、各学校に「情報教育担当者」を校務分掌上に置き、学校の情報化やトラブル対応等に役立つ研修を深めてきている。2002年からの研修では、主にデジタルコンテンツ活用について見方・考え方を中心に深めてきている。

さらに、各学校から効果的な活用について5事例を集める中心的存在となっている。

#### (2) 活用研究委員(各教科約2名づつの委嘱)

集まった実践のクオリティーを保つため事例を集めた後、それを評価することが必要である。評価は、各教科のエキスパートを委嘱し、教科等の目標に照らし合わせて行う。



〔図1〕 宮崎市デジタルコンテンツ活用授業モデル収集プロジェクトの概要

(3) 教育ソフトメーカーによる技術サポート

宮崎市にかかわってきた教育関連企業として、登録や検索の操作で教師がつまづかないよう、技術的な支援を行う。

(4) 学識経験者の活用

研究者が入ることによって、事例開発のノウハウやデジタルコンテンツの見方・考え方ならびに授業イメージのモデル化することにより、今後の授業作りに役立つ内容に結びつける。

(5) 教育委員会の役割

宮崎市教育委員会は、教育情報研修センターを中心として、研修の場や事例収集・公表の場の提供などトータルコーディネートを行う。

3. 現在の状況

デジタルコンテンツの授業活用モデルは、全国的に見てもまだ数が少ない。宮崎市は、2005年の目標値 1000 事例を掲げ、クォリティーの高い事例の収集に当たる。

現在、第1段階の「事例を集める」ことはできた、第2段階の「それぞれの事例のクォリティーを高める」段階にある。どのような事例に価値があるのか等を吟味しながら、それぞれの実践例へ改善点の提示を行っている。

わかる授業にするために、コンピュータのどのような使い方が、子どもの目を輝かすのか検証して行くことが、よりよい事例集にしていくポイントと考える。

参考文献

[1]ミレニアムプロジェクト(新しい千年紀プロジェクト)の基本的な枠組みと構築方針について(1999)  
<http://www.kantei.go.jp/jp/mille/991020millpro.html>  
 [2]教育情報ナショナルセンター(NICER)のホームページより(2001)  
<http://www.nicer.go.jp/>  
 [3]財団法人コンピュータ教育開発センター(CEC)のホームページより(1986)  
<http://www.cec.or.jp/CEC/>  
 [4]公立小・中学校におけるコンピュータ教室等の効果的な活用について改善の意見を表示したもの(2001)  
<http://report.jbaudit.go.jp/org/h12/2000-h12-0153-0.htm>  
 [5]「宮崎市情報教育研究大会」宮崎市教育情報研修センターホームページより(2002)  
<http://www.mcnet.ed.jp/mcnet/>